

御楼門が復元された2020年。
新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、
企画展・企画特別展・催し物を開催しました。

御楼門と、この1年

4 April

- 2020年
- 1日 年間パスポート開始
 - 11日 御楼門開門式
 - 18日 新型コロナウイルス感染症の感染予防とその拡大防止のため休館（～5月6日まで）
 - 22日 「おうちミュージアム」を黎明館ホームページにて開始

5 May



年間パスポート 御楼門完成記念 期間限定バージョンを販売！

6 June

- 7日 企画展「あの人の家族への手紙 -幕末維新-」が終了（1月28日～6月7日まで）
- 16日 企画展「にほんの飾り・さつまの飾り」を開催（～8月30日まで）
- 26日 常設展示3階エレベーターホールで、美術部門の特集展示を開始

7 July

- 14日 鹿児島県民の日（常設展示観覧料無料）
- 18日 学芸講座「にほんの飾り・さつまの飾り -飾りに込められた意味を探る-」
- 26日 楽しい体験講座「薩摩焼をつくろう」

8 August

- 6日 教職員向け学習支援講座（～8月7日まで）
- 8日 鹿児島県指定文化財「吹上町田尻の金銅菩薩立像」を展示（～8月16日まで）
- 18日 博物館実習（～8月25日まで）
- 22日 ミュージアムカレンダー（2020年9月～2021年3月）配布開始
- 23日 黎明館キッズフェスタ「謎解き！御楼門」

9 September

- 8日 企画展「蒔く・種を・耕す -かごしまの農具-」を開催（～2021年1月17日まで）
- 9日 御楼門建設寄付者銘板除幕式
- 27日 学芸講座「鹿児島の古文書2」
- 30日 企画特別展「鹿児島の城館」を開催（～11月3日まで）
- 2020秋の文化ゾーンフェスタを開催（～12月13日まで）

10 October

- 10日 記念講演会①「島津義弘陣跡の発掘調査成果と肥前名護屋」
- 17日 記念講演会②「鹿児島の近代」
- 24日 記念講演会③「鹿児島の城と鹿児島城」
- 黎明館1階ロティにて、ミニコンサート「クラシックギターのデュオ&城山に響け！高校生の歌声」を開催
- 25日 ワークショップ「江戸と令和をつなぐ地図」
- 31日 ふるさと歴史講座「近世の鹿児島城と城下町」

11 November

- 1日 学芸講座「鹿児島の城館」
- 3日 文化の日（常設展示観覧料無料）
- 4日 県議会御楼門視察
- 15日 学芸講座「蒔く・種を・耕す農具」
- 23日 鶴丸城跡歴史シンポジウム（県文化振興課主催）

12 December

- 13日 楽しい体験講座「和装本づくりに挑戦しよう」
- 22日 国宝「太刀 銘 国宗」を展示（～2021年1月11日まで）
- 23日 御楼門に門松としめ縄が飾られる

1 January

- 2021年
- 11日 学芸講座「『正八幡』とはなにか」
 - 17日 鹿児島県指定文化財「吹上町田尻の金銅菩薩立像」を展示（～1月24日まで）
 - 26日 企画展「さつまの女性たち -江戸から昭和-」を開催（～5月16日まで）

2 February

- 14日 楽しい体験講座「絵図でめぐる鹿児島城下」
- 18日 ロビー展示「十五人の雛祭り」を開催（～4月4日まで）
- 20日 学芸講座「川路利良の再評価の動きに関する資料整理」
- 25日 防災訓練
- 28日 学芸講座「さつまの女性たち」

3 March

- 31日 御楼門完成一周年



御楼門



桜

ツツジ

蓮



10月24日 ミニコンサート



10月25日 ワークショップ



復元後初めてのお正月！ しめ縄と門松を飾りました。



9月30日～11月3日 企画特別展「鹿児島の城館」を開催！



企画展ちらし



2月14日 楽しい体験講座「絵図でめぐる鹿児島城下」

令和2年度 企画特別展「鹿児島の城館」記念講演会

令和2年10月24日(土)

講演録

鹿児島の城と鹿児島城 －史料にみる城－

鹿児島国際大学短期大学部名誉教授 三木 靖 氏

1 城の最初の記載

宮崎県の一部を含む島津藩の歴史を考えると、『旧記雑録』掲載の建武3(1336)年2月7日土持宣栄軍忠状が、鹿児島の城の最初期の記述になる。1335年に移佐荘政所(宮崎市)を城として利用し、南加納政所、浮田荘預所、浮田跡江方政所、八代宿所等が同様に扱われた。政所等の荘園経営拠点は城の要素を持っていた。同時期の鹿児島県内では、1336～37年にかけて、中央政権の分裂による合戦絡みの武功発生地として、胡麻崎城(大崎町)等の地名称付の11城名が現れる。鹿児島の城は平安末・鎌倉初期(12世紀頃)築城と理解されがちだが、史料上の初見は1336年頃である。

2 城の変遷の記載

県内の初見11城の市来城(日置市)は、本城と隣接する複数の丘陵部に支城を持つ1km四方の山城で、一年弱の間、史料に頻出する。先行する山裾の寺院の背後を山城化したと考えられ、史料初見の1336年には存在した。最高地点の曲輪の出土遺物から、13世紀から利用された可能性がある。

11城のうち、伊作荘(日置市吹上)では、1336年時点で南朝方の人々が集まる拠点(大汝牟遲神社や伊作小学校所在の台地)を中原城とした築城時の様子が分かる。10年後、中原城は東方の中山城に移築した。中山城は、その後伊作島津家の伊作城と呼ばれ、複数の空堀の配置で曲輪群を囲む巧妙な構造で、周辺に離れた複数の山城を支城とした。

3 地頭・領家の合意の記載

伊作荘は、鎌倉幕府公認で荘園領主側と地頭が合意して下地中分が行われた。伊作川以北の北方は領家方、以南の南方は地頭方となり、北方に中原城・中山城(伊作城)が築かれた。同じく下地中分が行われた日置北郷(日置市吉利)の「日置北郷下地中分絵図」(1324年)には、領家政所と地頭所を記す区画があり、18世紀の『三国名勝図会』にも「領家宅地」として同じ場所が描かれた。政所跡と地頭所跡は現在の地図上でも比定でき、地頭所姓も伝わり、最初期の城として確認される領家政所の姿の参考となる。

4 城の拡大の様子

志布志城(志布志市)や伊集院城(日置市)、亀井山城(出水市)は複数の曲輪を持ち、主要な部分を空堀で囲む。空堀に特化した事例には平松城・恒吉城(ともに曾於市)や境田城(さつま町)がある。清水城(鹿児島市)は大きな空堀で周囲と区別するような曲輪を並べる。

鹿児島の城は1335年頃を初見として、中央政権の分裂による合戦に絡んだ場合に史料に残る。寺社境内や高所、人が行きにくい場所、荘園制の政所と繋がるような場所で始まり、山城に繋がっていく。



1987年の鹿児島県の城館調査では841カ所の城館が確認され、自治体や研究者の取組で200前後が追加確認され、中近世通じて1000カ所以上存在する。本講演は空堀に焦点を当てたが、「鹿児島の城館」展のように違った視角もあり、色々な形で城館を楽しみたい。

5 鹿児島城

山城と濠で囲まれた居所＝屋形(現在、本丸と呼ぶ黎明館敷地)の鹿児島城の姿は、現在では認識されにくい。城の建築・増改築には幕府の許可が必要で、藩の幕府への説明として1696年・1756年の詳細な絵図で、鹿児島城は山上に本丸・二之丸を持つ山城と明言した。実際は山上を使わずに現在の鹿児島医療センターから、黎明館・図書館・照國神社までの空間を中心に利用したが、山城部分と吉野橋濠から甲突川までの空間が鹿児島城であると絵図で説明しており、1800年前後の絵図でも変わらない。島津氏は、上町(鹿児島市)の東福寺城・清水城の山城+屋形を空堀で囲む城郭を継承し、屋形に内濠・外濠を整備した城として鹿児島城を位置づけた。

6 御楼門復元に際して

近代の町の発展のなかで吉野橋濠の痕跡は消えた。1930年代の有識者は本来の鹿児島城の範囲を捉えていたが、この認識を研究者すら共有できずに来た。1991年黎明館「薩摩七十七万石」展は前述の城館や史料を紹介し、黎明館・県立図書館が本丸・二之丸の周知に努めてきた。観光関係の案内では、「鹿児島城には城はない」と言われることが多々あったが、最近では「鹿児島城は城跡」と表現する。御楼門再建が大きな契機になった。

空堀等の遺構・遺物類の調査には膨大なエネルギーを要するが、城を明らかにする上で有効。鹿児島城を明らかにするためには、今後も膨大なエネルギーを投入する必要がある。その切掛を御楼門再建が作った。10年前には、「鶴丸城」の語が用いられ、鹿児島城という言葉は殆ど用いられず、10年後に御楼門ができるとは想像できなかった。ところがそれが県民の力で実現をみたのである。お陰様で鹿児島城への関心は急激に深まり、劇的に変わりつつある。10年後には、鹿児島城への認知度が更に高まり、鹿児島城を誇りに思う人々が多くなる可能性を強く感じている。

(文責 学芸課)